

西海ブロック水産業情報

NO. 98 (平成29年7月～9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>特になし。</p>	<p>○有明海 (ノリ養殖) カキ殻糸状体は培養開始から約6ヶ月経過。生長、胞子囊形成は順調。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・魚類による食害対策を実施。被害は軽微。成長、生残とも良好に推移。 ・一部のカキ養殖業者が自家採苗を実施。研究所で浮遊幼生調査を行い漁業者へ情報提供。 【栽培関連】 ・クルマエビの直接放流を実施。ヨシエビ及びガザミの中間育成、放流を実施。 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。 【資源管理】 ・5～9月、地元青壮年部が抱卵ガザミの再放流を実施。</p>	<p>○有明海 ・アゲマキ資源保護 佐賀県では、アゲマキ資源回復を目指し、人工種苗の大規模放流を継続して実施している。現在、放流した種苗から生まれたと推測される稚貝が放流箇所周辺の干潟で多くみられ始めたことから、佐賀県有明海区漁業調整委員会指示により、平成30年5月31日までの、アゲマキの全面禁漁を決定した。 ・養殖カキ 平成29年度の養殖カキは、養殖用種苗の搬入時点で、原盤あたりの種カキ付着数が少なかったものの、9月末時点までは目立った死亡等もなく順調に生育した。</p> <p>○玄海 ・カサゴ:5月上旬から下旬に約10万尾(全長40～50mm)を配布終了。 ・カサゴ:7月中旬に約3千尾を(全長50～60mm)配布終了。 ・クロアワビ:平成28年度産:殻長16.6～21.8mm約8万個飼育中(9月上旬)。 ・ナマコ:アオナマコは6月中旬から7月中旬に放流用(体長10～20mm)約63万尾を配布終了。 ・ナマコ:アカナマコは7月中旬から8月上旬に放流用(体長10～20mm)約28万尾を配布終了。</p>		<p>・7～8月:ブリ、マダイでイリドウイルスによる被害発生 ・8月:トラフグでオヨギソギンチャク刺症による被害あり ・9月:クルマエビPAV発生(1件)、感染拡大はない。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・スジアラ種苗生産:約3万尾を生産 ・イワガキ種苗生産:6、8月に採卵し、種苗生産中 ・7月に八代海でKarenia mikimotoi赤潮、8～9月にかけて八代海でChattonella antiqua赤潮が発生したが、ともに漁業被害はなかった。</p>	<p>平成29年9月13日における県北部の北浦地区(ハハの浜)の藻場調査にてクロメ他藻類の植食性魚類による比較的大きな被食が確認された。本地区ではこの時期における植食性魚類による被食はここ数年確認されていなかった。クロメの約5割で藻体の3/4以上の被食があり、そのうち半数近くが生長点まで食べられていた。また、アマモ等の単体にも食痕が確認され、食痕の状態から小型のアイゴによるものと考えられ、被食は7月末から9月の間に起きたものと推察された。なお、この期間中の水温は約26～28℃程度であった。</p>		